販売店・工事店さま用

4007337(00/05)

品番 GD-B181A2S / GD-B181A2P

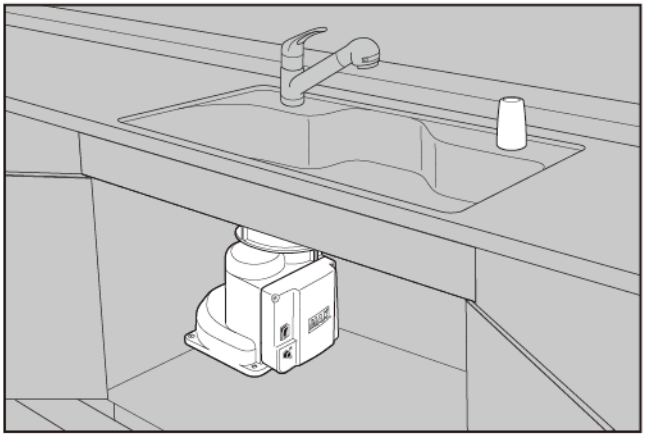
自動給水 ディスポーザ 取付説明書

［バキュームブレーカ方式］

お願い

ディスポーザ単独での使用はできません。当社指定の処理槽が必要となります。

・本機は第三者認証機関による適合評価認定商品です。認定内容に従い取り付け（配管など）を行なってください。
・取り付け作業後、この取付説明書は取扱説明書と一緒に、必ずお客様にお渡しください。
・正しい設置および正しく使用されなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。



❶ 安全上のご注意
❷ 梱包内容
❸ 工具一覧
❹ 取り付けの前に
❺ 本体／自動給水装置の取り付け・固定
❻ 排出管の取り付け
❼ アース線の取り付けと漏電しゃ断器付プラグの差込み
❽ 試運転

MAX マックス株式会社

❶ 安全上のご注意

●安全にご使用いただくために必ずお守りください。

○ご使用前に、この事項を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
○この項に示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ずお守りください。
○ここでの「人」とは、使用者のみでなく、ご家族、来客者も含みます。

▼表示区分の意味は次のとおりになっています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

▼図記号の意味は次のとおりになっています。

- 「必ず行うこと」
- 「水ぬれ禁止」
- 「禁　止」
- 「ぬれ手禁止」
- 「分解禁止」
- 「注意喚起」
- 「接触禁止」
- 「アース線接続」

⚠警告

設置工事は、設置専門業者または指定業者が行なってください。

誤った電気工事や移設工事は、火災・感電・水漏れの原因になります。

交流100V以外での使用はしないでください。

指定電圧	AC100V

禁止

火災や感電の原因になります。

電気工事・配線工事は、電気設備技術基準や内線規定に従い、安全、確実に行なってください。

誤った電気工事や配線工事は、火災・感電の原因になります。

●電気・配線工事は、電気工事士の方が行なってください。

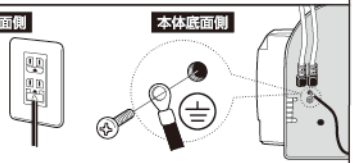
設置・配線工事は、現場の設置図および取付説明書に従い、必ず付属の部品を使って確実に行なってください。

強度不足や取り付け不完全な場合は、本体の落下などによるけがや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

アース線は必ず接続してください。
「D種接地工事（旧第3種接地工事）」

アース線接続

アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。（アース線の取り付けは、法律で義務付けられています。）



●アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方が行なってください。（法律で規定されています。）

❶ 安全上のご注意（つづき）

⚠警告

壁に穴をあけるときや、電源コードを固定するときは、屋内配線・屋内配管を傷つけないでください。

禁 止　漏電・感電・火災の原因になります。

アース線の接続は、必ず漏電しゃ断器付プラグをコンセントから抜いて行なってください。

感電の原因になります。

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話線には絶対接続しないでください。

禁 止　爆発・感電の原因になります。

電源コードをステープル（　）などで固定しないでください。固定は市販のケーブル固定具をお使いください。

禁 止　コードキープ　電源コードが破損してショートし感電・火災の原因になります。

本体や制御ボックスをぬらさないでください。

水ぬれ禁止　漏電・感電の原因になります。

ぬれた手で、漏電しゃ断器付プラグの抜き差しや、漏電しゃ断器の操作をしないでください。

感電の原因になります。　悪い例

ぬれた手で電源スイッチを操作しないでください。

感電の原因になります。

電源コードは途中で切断したり、接続して延長しないでください。

禁 止　火災・感電の原因になります。

設置終了後は、設置・配線工事が確実にできているか確認してください。

設置が不完全な場合は、本体の落下などによるけがや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

❶ 安全上のご注意（つづき）

⚠注意

取り付けの際は、床に毛布などを敷いてください。

毛布などを敷いていないと床をキズつけ、補償問題になることがあります。

取り付けの際に、配管内に布きれ、配管くずなどを残さないでください。

禁 止　配管内に布きれ、配管くずなどがあると、配管内が詰まり、水漏れの原因になることがあります。

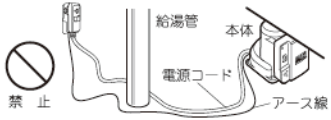
取り付け後は、金属片やタイル片などをきれいに取り除いてください。

踏んで、けがの原因になることがあります。

通水後は、必ず各部の水漏れ確認をしてください。

水が漏れると、周囲が水びたしになり、大きな補償問題になることがあります。

電源コード・アース線は、給湯管などの高熱になるものに近づけないでください。

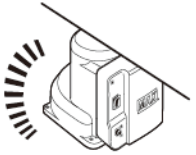


電源コード・アース線が加熱され破損し、火災・感電の原因になることがあります。

本体に触れる場合は高温になっている場合がありますのでご注意ください。

やけどの原因になることがあります。

注意喚起



異物を取り除くときは、電源スイッチを必ず「OFF」にし、運転が止まっていることを確認してください。

破砕部内の破砕刃などで手にけがをする原因になることがあります。
- 厚手の手袋などを着用して行なってください。
- 異物を取り除いた後は、電源スイッチを「ON」にしてください。

禁 止
- シンクに連続して熱湯を流さないでください。
- シンクに高温の油を絶対に流さないでください。

排出管、本体の変形や劣化が発生し、水漏れの原因になることがあります。

フタとバスケットを落下させないように注意してください。

フタ（フタスイッチ）が破損し、故障の原因になることがあります。

床がキズついたり、ケガの恐れがあります。

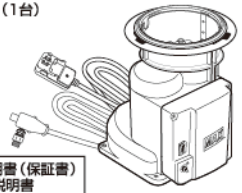
バスケットを取り外す際は電源スイッチを必ず「OFF」にし、運転が止まっていることを確認してください。

OFF

❷ 梱包内容

●取り付けの前に、必ず確認してください。

本　体（1台）



シンクフランジアッセイ

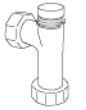
フタ（フタスイッチ）

Oリング

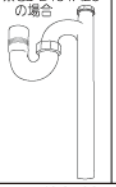
取扱説明書（保証書）
＋ 取付説明書

本体取り付け用ネジ（2本）
六角穴付ボルトM5×6

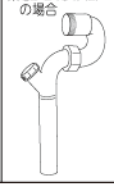
排出管継手



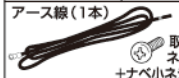
Sトラップ
※GD-B181A2Sの場合



Pトラップ
※GD-B181A2Pの場合



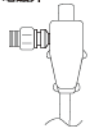
アース線（1本）



アース線
取り付け用
ネジ（1本）
＋ナベ小ネジM5×6

自動給水用部品

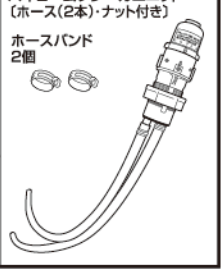
電磁弁



本体と接続

バキュームブレーカカバー

バキュームブレーカユニット
（ホース（2本）・ナット付き）

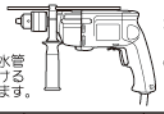


ホースバンド
2個

❸ 工具一覧

●取り付けに際して、次の工具が必要です。（付属ではありません）

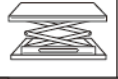
電動ドリル



※流し台に排水管用の穴を開ける際に使用します。

ホールソー

ジャッキ



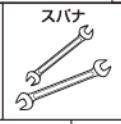
水栓金具しめつけ工具

サドルバンド

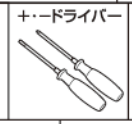
締付け工具

ウォーターレンチ

スパナ



＋・－ドライバー



六角棒レンチ
（対辺4）

ウエス、毛布など

スケール

引廻しノコ

塩ビ用ノコ

塩ビ用接着剤

やすり

カッター

ラジオペンチ

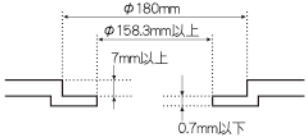
❹ 取り付けの前に

取り付けシンクの確認

●シンク排水口開口部の各寸法の確認が必要です。

シンク排水口の孔サイズ：φ158.3mm以上
シンク排水口の段差部　：7mm以上
シンクの板厚　　：0.7mm以下

シンク排水口開口部断面図



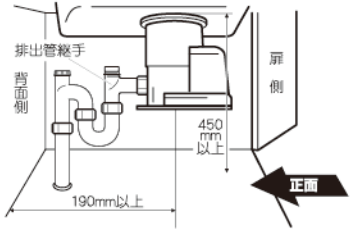
お願い

●ホーローシンクや樹脂シンクなどのカラーシンクの場合、ディスポーザ設置部の開口寸法が、ステンレスシンクと異なることがありますので、事前に上記の寸法の確認が必要です。

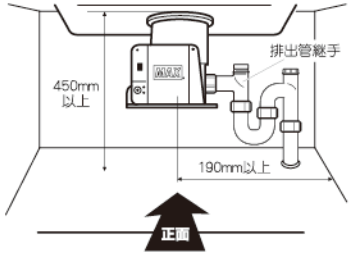
取り付けスペースの確認

本体（幅238×奥行268×高さ280mm）設置スペースと配管スペースが必要となります。

排出管継手がシンク背面の場合（制御ボックスが右側）



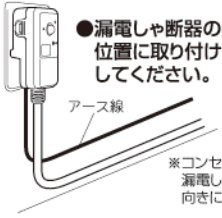
排出管継手がシンク右側の場合（制御ボックスが正面）



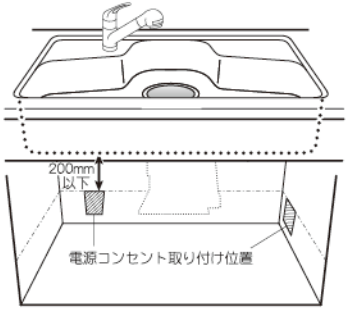
電源およびアース線の確認

●本品を設置するシンク用キャビネット内にアース端子付電源コンセントが必要です。
電源はAC100V,15A以上が必要です。
（電源コードの長さ:1.0m）

●漏電しゃ断器の点検ができる位置に取り付けてあるか確認してください。



※コンセントに差し込んだ時、漏電しゃ断器付プラグが縦向きになる必要があります。

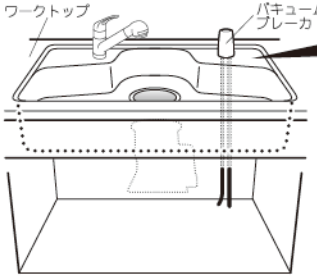


※電源コンセントの取り付けは、引き出しの設置を考慮して取り付けてください。

❹ 取り付けの前に（つづき）

バキュームブレーカ設置位置の確認

●バキュームブレーカを設置するにはシンクに取り付け穴の加工が必要です。



取り付け穴 φ38～39mm

※取り付け穴は、バキュームブレーカ外径（φ48mm）の範囲まで平らな面に加工してください。

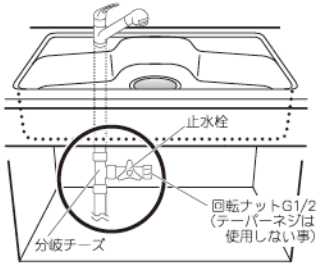
※取り付け穴は、**厚みが15～20mm**になる様に当て板（補強材）を設けてください。

●バキュームブレーカ取付面からワークトップ（溢れ縁）の高さが35mm以内であることを確認してください。

⚠注意

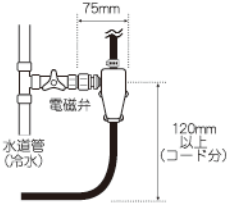
取付限界ラインがワークトップ（溢れ縁）より高くなるように施工する事。正しい位置に取り付けないと部品の機能を発揮できません。

水道工事の確認



●水道管が分岐されており、その先に止水栓が取り付けられていることを確認してください。

電磁弁スペースの確認



●上記寸法が確保されていることを確認してください。

給水圧力の確認

●付属している電磁弁の使用給水圧力範囲は0.1～0.4MPaです。給水圧力を確認して下さい。

❹ 取り付けの前に（つづき）

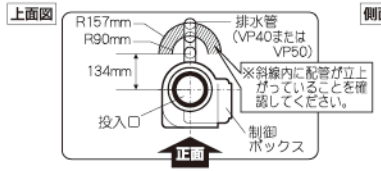
Sトラップ、Pトラップの位置確認

流し台設置場所の床または側面から出ている排水配管（VP40またはVP50）の位置を確認します。

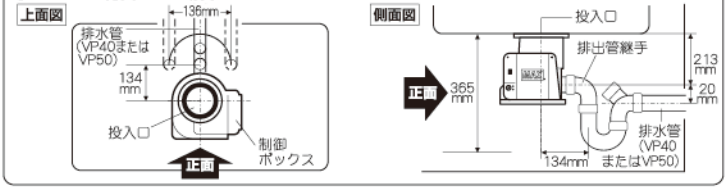
流し台の機種により、床または側面からのVP40またはVP50の立上げ位置が異なりますので、本取付作業との事前調整が必要です。

排出管継手がシンク背面の場合（制御ボックスが右側）

Sトラップ〈床からの場合〉

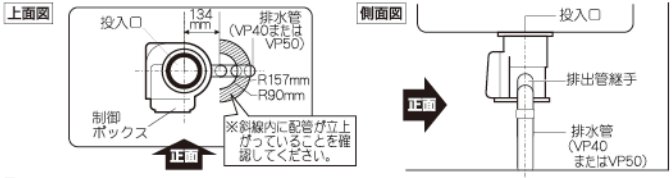


Pトラップ〈背面からの場合〉

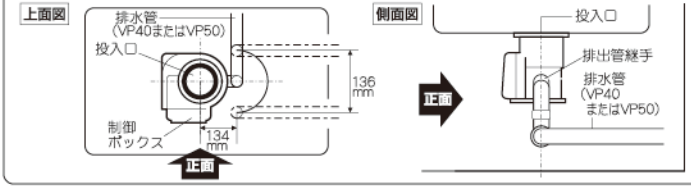


排出管継手がシンク右側の場合（制御ボックスが正面）

Sトラップ〈床からの場合〉



Pトラップ〈側面からの場合〉



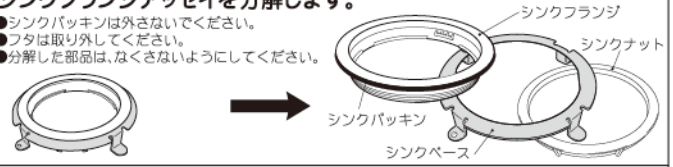
❺ 本体／自動給水装置の取り付け・固定

●ここでの説明は、『排出管継手がシンク背面の場合（制御ボックスが右側）』として説明してあります。（❹ 取り付けの前に 参照）

シンクフランジ・Oリングの取り付け

1 シンクフランジアッセイを分解します。

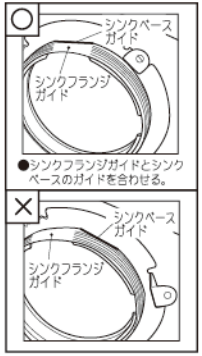
●シンクパッキンは外さないでください。
●フタは取り外してください。
●分解した部品は、なくさないようにしてください。

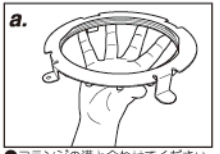


2 シンクフランジを「OFF」マークの向きに注意して流し台シンク排水口に仮置きします。※養生テープなどで仮止めするとその後の作業がやりやすくなります。

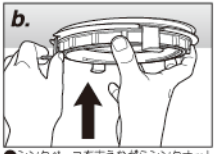
排出管継手がシンク背面の場合（制御ボックスが右側）	排出管継手がシンク右側の場合（制御ボックスが正面）
●『OFF』マークがシンクの左側にあることを確認してください。	●『OFF』マークがシンクの正面にあることを確認してください。

3 シンクの下からシンクフランジのガイドに沿ってシンクベースを差し込み、シンクナットで固定（仮止め）します。

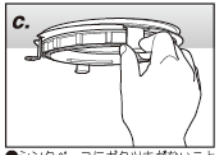




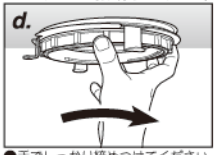
●フランジの溝と合わせてください。



●シンクベースを支えながらシンクナットをまっすぐに取り付けてください。



●シンクベースにガタツキがないことを確認してください。

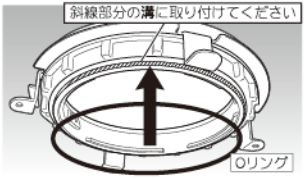


●手でしっかり締めつけてください。

❺ 本体／自動給水装置の取り付け・固定（つづき）

本体の取り付け・準備

4 Oリングをシンクフランジ溝部に取り付けます。

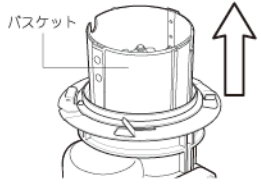


⚠注意

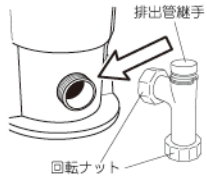
Oリングにゴミや汚れが付着している場合には、きれいに拭きとってから取り付けてください。
Oリングにゴミや汚れが付着している場合、水漏れの原因になります。

Oリングは正しい位置に取り付けてください。
Oリングが正常な位置に入っていない場合、水漏れの原因になります。

5 バスケットを本体から取り出します。



6 本体に排出管継手を取り付けます。



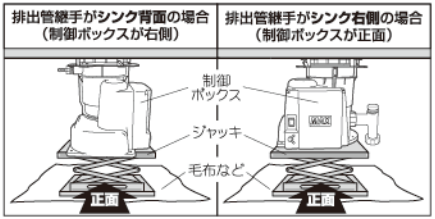
⚠注意

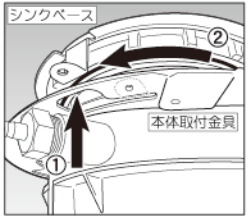
手で回転ナットを確実に締付け、固定してください。
締付けが不十分な場合、水漏れの原因になります。

排出管継手は真直ぐ取り付けてください。
正しく取り付けないと、水の流れが悪くなります。

7 流し台の下から本体をジャッキで押し上げ、
①本体取付金具をシンクベースに押し当てます。
②本体を左側にまわし、シンクベースと勘合させます。

排出管継手がシンク背面の場合（制御ボックスが右側）	排出管継手がシンク右側の場合（制御ボックスが正面）





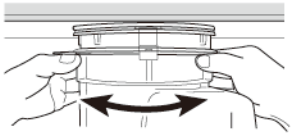
●シンクフランジ溝部Oリングと本体内側（右図参照）にシリコングリス（モリコートDX）を塗布してください。
●4カ所の本体取付金具がしっかり勘合していることを確認してください。
●流し台の底板にキズがつかないように、毛布などを敷いて行なってください。
●流し台の底板が弱い場合は、厚い板を敷くなどして底板を補強してください。
●現場の設計図により、排出管継手の向きを確認してください。
●自動車用の小型ジャッキ（パンダグラフ式）も利用できます。（本体がぐらつきますので、落ちないように支えてください。）

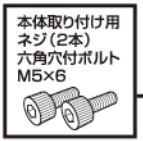
推奨シリコングリス：
モリコートDXペースト
東レ・ダウコーニング（株）

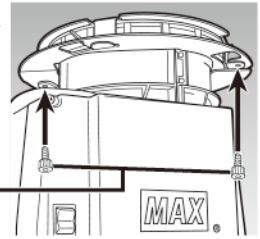
❺ 本体／自動給水装置の取り付け・固定（つづき）

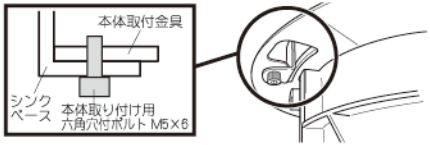
本体の取り付け・固定

8 本体を左右に微調整して、シンクベースと本体取付金具のネジ穴位置を合わせ、左右のネジ穴から六角穴付ボルト（M5×6を2個）で固定します。









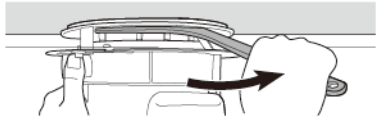
⚠注意

六角穴付ボルトはしっかりと締付けてください。（2箇所）
締付けが不十分な場合、水漏れの原因になります。

9 シンクフランジの突起と本体内側の突起のセンター位置を合わせて、シンクナットを締付け工具で固定（増し締め）します。

●シンク上面から見てシンクフランジの突起と本体内側の突起のセンター位置を、本体を左右に微調整して合わせます。

締付け工具



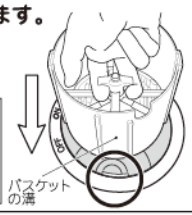
⚠注意

上記の締付け工具でシンクナットを確実に増し締めして、固定してください。
締付けが不十分な場合、水漏れの原因になります。

10 バスケットを入れます。

●シンクフランジの突起とバスケットの溝を合わせて、バスケットを取り付けてください。

●バスケットがきちんと出し入れできるか確認してください。
出し入れしづらい場合にはシンクフランジの突起と本体内側の突起のセンター位置を再調整してください。



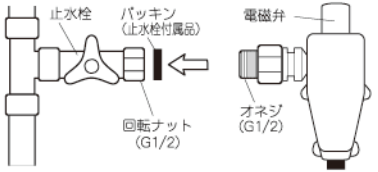
●バスケット下部の六角溝がきちんと噛み合うように、バスケット装着レバーを左右に回し、しっかり勘合させてください。

❺ 本体／自動給水装置の取り付け・固定（つづき）

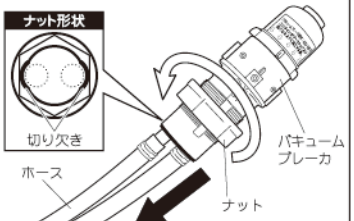
電磁弁・バキュームブレーカの取り付け

11 電磁弁を止水栓に取り付けます。

●パッキンが入っていることを確認してください。

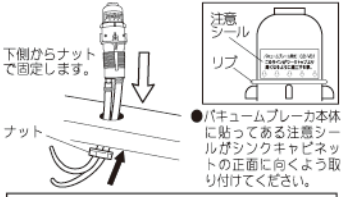


12 バキュームブレーカユニットからナットを外します。



●ナットをホースに通す際、ナット内側の切り欠きに合わせてください。

13 取り付け穴周囲のゴミを取り、バキュームブレーカを取り付けます。



●バキュームブレーカ本体に貼ってある注意シールがシンクキャビネットの正面に向くよう取り付けてください。

⚠注意

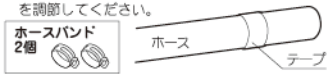
ナットは工具等でしっかりと締め付けて固定してください。

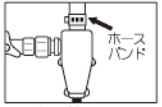
⚠注意

バキュームブレーカ設置位置は ❸取り付けの前に の バキュームブレーカ設置位置の確認 を参照してください。

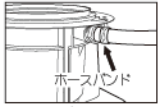
14 目印（テープ）のついたホースを電磁弁に接続します。

●電磁弁と本体との間でホースが長い場合は長さを調節してください。





●目印の付いたホースを電磁弁に根元まで差し込み、ホースバンドで固定します。



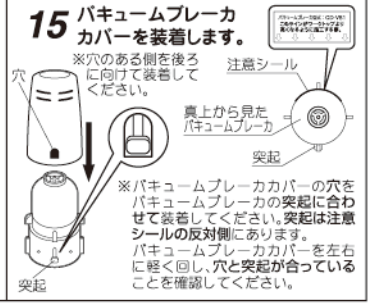
●もう一方のホースを本体の根元まで差し込み、ホースバンドで固定します。

⚠注意

電磁弁側と本体のホース接続を間違えると、バキュームブレーカからの水漏れの原因になります。

15 バキュームブレーカカバーを装着します。

※穴のある側を後ろに向けて装着してください。



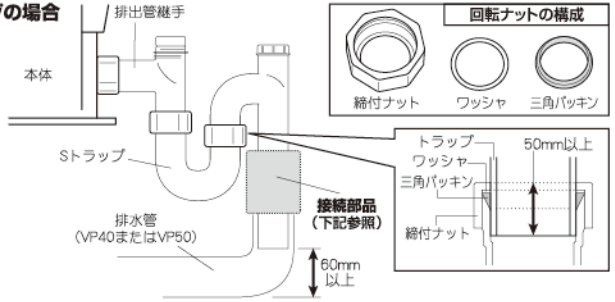
※バキュームブレーカカバーの穴をバキュームブレーカの突起に合わせて装着してください。突起は注意シールの反対側にあります。
バキュームブレーカカバーを左右に軽く回し、穴と突起が合っていることを確認してください。

❻ 排出管の取り付け

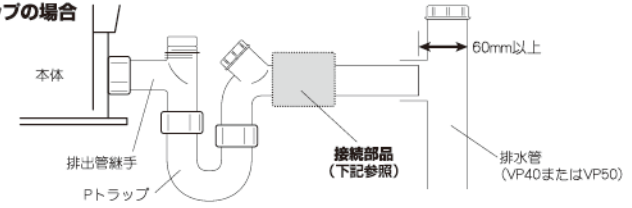
排出管（SトラップまたはPトラップ）を排出管継手に仮接続し、
排水管（VP40またはVP50）に接続部品を使用して接続してください。

●流し台の機種により、床からの排水管（VP40またはVP50）の立上げ位置が異なりますので、本取付作業との事前調整が必要です。

Sトラップの場合



Pトラップの場合



●排水管との接続には、設置場所の状況によって、いずれかの接続部品が必要です。

※接続部品は同梱していません。※部品品番は全て丸一（株）製

接続部品名 ／ 排水管の大きさ	ディスポーザー用ジョイントゴム（4349）	ディスポーザー用ジョイントエルボ（0166）	DP用排水アダプター（1 1/2）セット（12795）
VP40	そのまま使用できます。	そのまま使用できます。	そのまま使用できます。
VP50	インクリーザー（IN）50×40＋短管（40A）をご使用ください。	インクリーザー（IN）50×40＋短管（40A）をご使用ください。	50A管用ソケット（2230）をご使用ください。

⚠注意

締付ナットはしっかりと締付けてください。
締付けが不十分な場合、水漏れの原因になります。

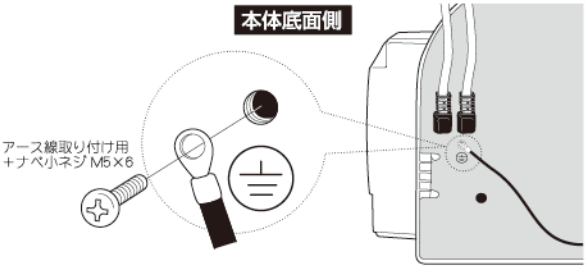
お願い

●同梱のトラップ以外の配管部材を使用しないでください。臭いや水漏れの原因になります。
●本体が傾かないように接続してください。
●長さが長い場合、Sトラップ、Pトラップを切断して使用してください。

❼ アース線の取り付けと漏電しゃ断器付プラグの差込み

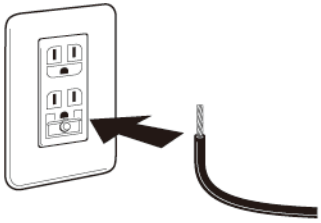
1 アース線の取り付け

●本体底面のアース線用ネジ穴に、アース線（付属品）を取り付けてください。



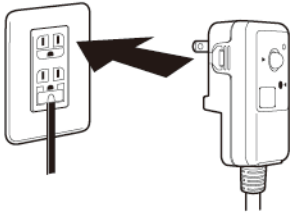
2 アース線の配線

●アース端子付き電源コンセントに接続します。



3 漏電しゃ断器付プラグを電源コンセントに差し込んでください。

●漏電しゃ断器付プラグのケーブルを市販のケーブル固定具（コードキープ）を使って流し台の背面に綺麗に取り付けてください。



⚠警告

アース線は必ず接続してください。 『D種接地工事（旧第3種接地工事）』

アース線接続

アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。
（アース線の取り付けは、法律で義務付けられています。）

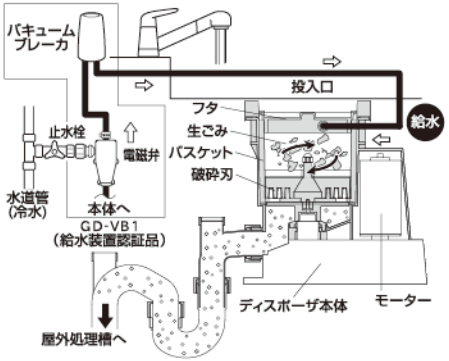
●アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方が行なってください。
（法律で規定されています。）

アース線の接続は、必ず漏電しゃ断器付プラグをコンセントから抜いて行なってください。

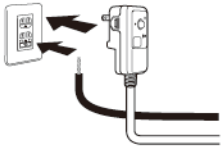
感電の原因になります。
●ステープルでの固定は行なわないでください。

⑧ 試運転

1 自動給水装置の接続がきちんと行われているかどうか確認してください。

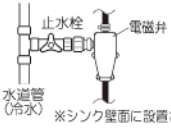


2 アース線がきちんと配線されているか、漏電遮断器付プラグがきちんと差し込んであるかどうか確認してください。



3 電源スイッチが『OFF』になっているかどうか確認してください。

4 元栓並びに止水栓を開き、止水栓-電磁弁までに水漏れがないか確認してください。



※シンク壁面に設置されています

お願い

●元栓並びに止水栓は、全開の状態で使用してください。

5 バスケットがきちんと挿入されているかどうか確認してください。

⚠注意

バスケットを一旦取り外し、バスケットの内部、取り外した本体側に異物の混入がないか確かめ、再びバスケットを挿入してください。

6 電源スイッチを『ON』にしてください。

●ブザーが「ピ」と鳴ります。

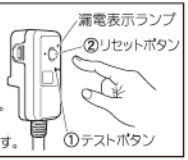
確認事項

●漏電しゃ断器の動作を確認してください。

漏電しゃ断器の点検 ※電源スイッチを「ON」にして行なってください。

① 漏電しゃ断器のテストボタンを押す
正常な時は、漏電表示ランプ（オレンジ）が点灯します。

② リセットボタンを押す
ブザーが「ピ」と鳴り、漏電表示ランプが消灯します。



⚠警告

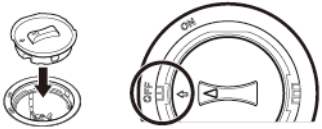
ぬれた手で電源スイッチを操作しないでください。

感電の原因になります。

⑧ 試運転（つづき）

自動給水運転プログラム

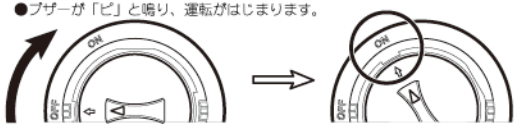
7 投入口にフタをしてください。



●フタの方向（△印を投入口の『OFF』に合わせます）を確認して、取り付けてください。

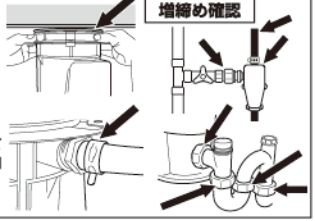
8 フタスイッチを『ON』にし、動作、水漏れを確認してください。

●ブザーが「ピ」と鳴り、運転がはじまります。



確認事項

●本体が運転し、約35秒後に「ピピ」と鳴るか確認してください。
●約１分後に自動停止して、ブザーが「ピ」と鳴るか確認してください。
●運転中にフタスイッチを『OFF』にすると、運転が止まり、ブザーが「ピピピピピピ」と鳴るか確認してください。
●正常に給水が行われているか確認してください。
●運転中に異常音、異常振動などがないか確認してください。
●各部の水漏れがないか十分確認してください。
●シンクに水を20リットル程度ためて、各部の水漏れを確認してください。（バスケットを外し、本体内から排出管継手への出口に栓をして確認してください。）
●増締めされていることを確認してください。



9 電源スイッチを「OFF」にしてください。

●試運転が終わったら、フタスイッチは『OFF』の位置に戻してください。

● 取扱説明書の裏表紙の保証書に、販売店名、住所、電話番号、取付年月日を記入の上、この取付説明書と共にお客様に必ず保管していただくように依頼してください。

マックスお客様ご相談ダイヤル（無料）
365日 24H受付
フリーダイヤル **0120-228-457**
「ナンバーディスプレイ」を利用しています。

MAX マックス株式会社
〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6-6
TEL. 03-3669-8112（代） FAX 03-3669-8135

1版 2008年9月	3版 2010年7月
初版 2008年6月	2版 2009年9月